

安全・安心を担う人材を育てる

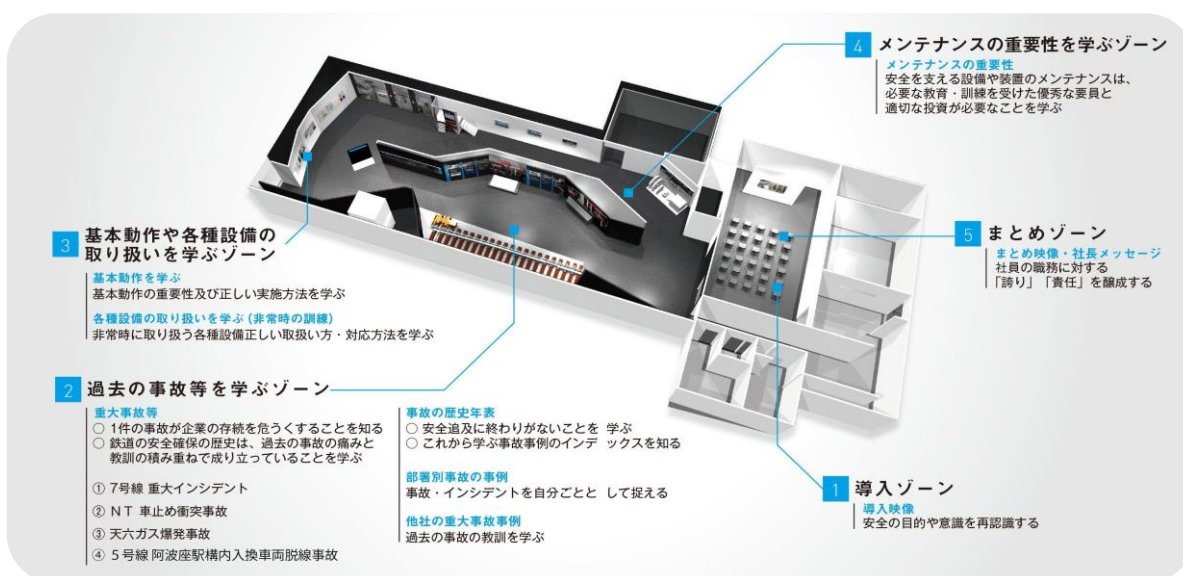
地下鉄・ニュートラムの安全・安心は、社員一人ひとりの意識・行動のもとに確保されています。その意識・行動を育むために、Osaka Metroでは「人づくり」に力をいれています。

◎全社員への安全研修

全ての社員が、職種を越えた研修を通じて自分たちに「何が必要なのか」、「何をしなければならないのか」を考える研修を、輸送の生命館（安全研修施設）で行っています。

輸送の生命館とは

「事故の原因や背景」「安全運行とは何か」「事故の恐ろしさとはどのようなものか」についての展示物や、当時を知る関係者の声から学び、ルールの制定を知るとともに、事故の教訓を風化させないために設置した施設です。現在、昨年梅田駅構内にて発生させた『ホーム端部接触事象』の教訓の設置や、自然災害・BCPについて学ぶスペースを設置するための改修を計画し、2023年度中の運用開始を目指しています。



2020年・2021年度の安全研修内容

主な研修内容	
研修概要(現状認識)	経営トップコミットメント等の現状認識を踏まえて
交通事業本部長メッセージ	
安全に関するハンドブック	安全方針の再周知
事故から学ぶ (輸送の生命館展示物を活用した研修)	当社の事故から学ぶ(天六ガス爆発事故) ●天六ガス爆発事故は、50年の節目となることから事故の教訓を振り返り、大きな事故を絶対に起こさないという安全意識を高める。
各部門別項目	【運輸部・技術部】 ●他社事例を活用し、「安全な運行とは何か。事故の怖さ恐ろしさとはどのようなものか。」などを再認識する。 【本社関係(コーポレート部門)】 ●Osaka Metroの基礎は鉄道であり、その鉄道事業は安全・安心の基盤の中で行わなければならないことを理解する。 【グループ会社関係】 ●緊急時の対応として、緊急章の使用及び非常梯子、非常停止ボタン、車内通報装置などの取り扱いについて実践形式で研修を実施する。
まとめ	●重大な事故を絶対に起こさないという決意 (過去の事故を風化させることなく、お客さまに与えてしまった痛みを決して忘れてはならない) ●ルールや取組みの背景を考える ～再発防止のため～ (現在も行われている対策や取組みの意義や目的を考える) ●教訓を心に刻む ～未然防止につなげる～ (過去の事故を振り返り、謙虚に学び、教訓を自分のものにして未然防止へと役立てる) ●研修効果チェックシート

◎危険体感研修

労働災害体感研修

労働災害に対する教育は、机上教習では臨場感がなく、災害時の本当の怖さを伝えきれないことから、安全に対する意識を高めるため、危険体感施設（実際に危険を体感できる施設）にて体感研修を実施しています。



体感訓練の一例

◎新しい技術を活用し人材を育てる

VRを活用した危険感受性向上訓練システム装置

VR（Virtual Reality：仮想現実）を活用した危険感受性向上訓練システム装置は、各作業環境で想定される危険な状況をVR上で疑似体感し、危険に対するリスクの感度を向上させるものです。

CG（Computer Graphics：コンピュータを使った画像）でのVRを活用することで、実映像では再現不可能な触車などの重大事故防止に関する訓練及び急曲線や渡り線部などの危険な場所を凝縮した空間の構築を可能とし、「安全」かつ「リアル」な危険体感が可能となっています。

この装置で訓練することにより、実作業に携わる社員には、鉄道従事者として、過去の教訓をよりリアルに体験し、教訓の継承や、危険感受性のさらなる向上を図り、実作業に携わらない社員には、職場の仲間がこのような危険な箇所働いていることを強く共感することにより、全社員の「安全最優先」の意識を涵養するものです。

VRで再現した作業環境4箇所（イメージ画像）



急曲線部



直線部



渡り線部



停留場部

それぞれの作業環境の中には色々なイベントがあり、ヘッドマウントシステムを写真のように装着することで仮想空間に入り、各種体験ができるようになっています。



渡り線部点検シーン



VRシステム体感中

安全・安心を担う人材を育てる

◎発表会等を通じた知識・技術の研鑽と展開

研修・訓練で多くの知識や技能をインプットするだけでなく、コンテストや発表会を通じてアウトプットすることで知識や技能の定着化、他者とのコミュニケーション活発化を図り、安全・安心の更なる向上に努めています。また、表彰を行うことで、個々人のモチベーションの向上も目指しています。

駅スタッフサービス向上コンテスト

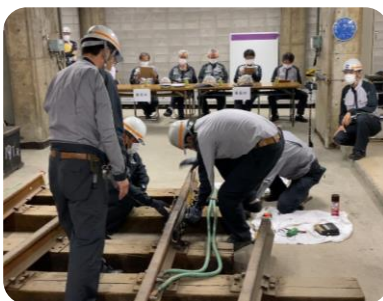
管区駅毎に選抜された駅スタッフが、接客スキル及び知識を競いました。接客力の向上とモチベーションの向上に繋げ、「お客さま満足度」の向上を図っています。(2021年度はコロナ禍のため映像による審査で行いました)

2021年度「駅スタッフサービス向上コンテスト」
(テーマ) “笑顔”と“感謝”のおもてなし!!
～自分以外は、すべてお客さま～
Osaka Metroをご利用いただくすべてのお客さま、職場を提供してくれる会社、健康を考え元気に仕事に送り出してくれる家族、喜びを分かち合えるチームメイトに「笑顔」と「感謝」



電気技能競技会

電気設備は鉄道の安全に欠かすことのできない重要な設備です。その電気設備にトラブルが発生したことを想定し、所属毎の各チームが復旧作業を披露し参加者相互で再確認することにより、不測の事態においても速やかに対応が図れることを目指して実施しています。



車両コンテスト

車両保守業務の技術継承の一つの手段である「作業動画マニュアル」に関して、その分かり易さや研修用としての効果等を基準に競いました。様々な作業に対し動画マニュアルを整備することで、社員の能動的な育成環境を進めています。



業務研究発表会

業務における数々の難題に取り組み、その経験や成果等をまとめ発表しています。設計・積算、あるいは保守・改造工事を行う上で参考になることも多々あります。また、技術的には古い過去のものであっても、新しいものに取り組み姿勢やその手法等を業務に活用でしています。



建築工事安全大会

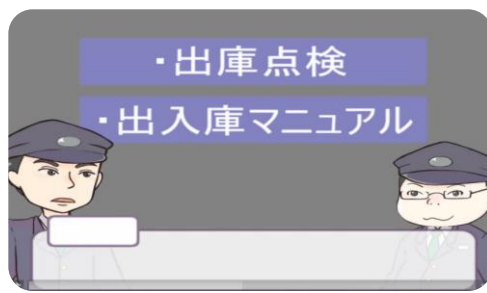
工事受注者を対象に、「確認の重要性」をテーマとして、過去に発生した事故の芽事象などの実事例を振り返り、ヒューマンエラーに起因する事故の防止を目的とした講習会を開催し、受注者はもとより、当社社員の「現場力」を高めることを目的に実施しています。



◎安全に関する取組み発表会

Osaka Metro Group全体の安全意識の向上と発表者やその所属の業務に対するモチベーションの向上を図るため、2011年度より安全に関する取組み発表会を開催しています。

2021年度は運輸部（駅務・運転）・技術部（電気・車両・工務・建築）で予選会を実施し、グループ会社の株式会社大阪メトロサービスの代表チームを含めた7チームによる本選の結果、運輸部八尾乗務所（チーム名「やおキャン」）が最優秀賞を受賞しました。



◎安全に関する気づき情報等優秀事例表彰及び

本社部門における安全の取組み発表

Osaka Metro社員の全員参加による安全意識のさらなる向上及び職場環境の改善を図るとともに、安全輸送の更なる向上を目的として、事故の芽情報（ヒヤリハット、社員の気づき）に基づいて防止対策を実施し、安全確保に顕著な貢献があったと認められる社員もしくは事業所に対し表彰を行いました。

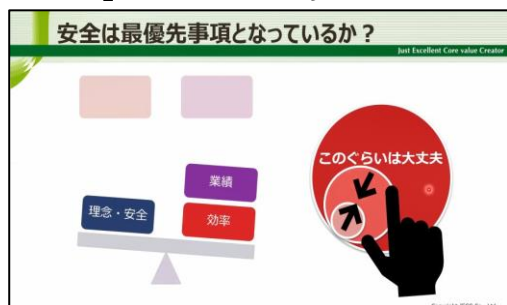
また本社部門における安全の取組み（自分たちの業務が安全、安心の追求にどのように関係しているかについての具体的な取組み事例）で優秀賞に選出された部の表彰を行いました。



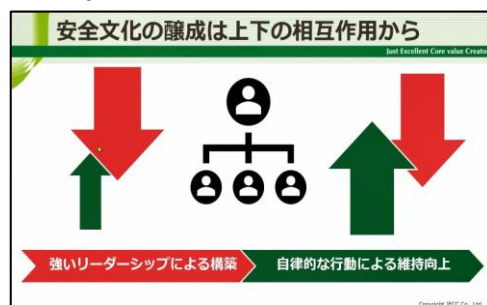
◎安全講演会

安全講演会は、1993年10月5日に発生させた「ニュートラム車止め衝突事故」を教訓とし、事故を繰り返さないよう、運輸部門と保守部門が一体となり、安全運行並びに事故防止の強化の取組みの一環として地下鉄・ニュートラム安全運行強化週間（毎年10月5日～11日）の取組みの一環として毎年開催しています。

2021年度は、安全文化の醸成を目的として株式会社ジェックに講師を委託し、経営層向けには「経営課題としての安全文化醸成を考える」、管理職向けには「安全文化醸成のカギを握るリーダーシップ」をテーマに録画配信にて開催しました。



経営層向け講演会スライドの一部



管理職向け講演会スライドの一部

安全・安心を担う人材を育てる

◎専門研修・訓練（運輸系の研修等の一部を紹介）

運転士の養成・訓練

お客さまに最前線で安全を提供する立場にある運転士は、身体的・精神的な資質のほかにさまざまな知識・技術の習得が必要です。

国土交通省から指定された動力車操縦者養成所において、専属の教師が自身の経験などを含めた幅広い教育を行うとともに、実際の線区における指導操縦者による細やかな電車の操縦訓練により、安全意識の高い運転士の養成に努めています。



異常時対応力を高める訓練

故障や災害などの事象への適切な対応力を高めるため、各乗務所に設置した運転シミュレータを用いた訓練や、異常時を想定したテロ対策訓練などの各種訓練を行っています。



運転シミュレータ訓練



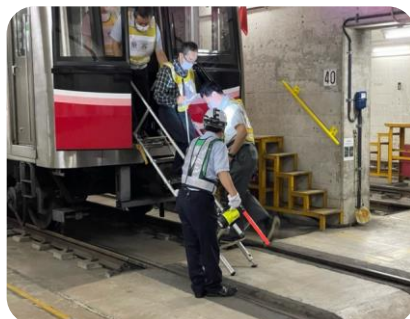
テロ対策訓練（恵美須町駅）

駅係員による鉄道信号駅取扱教育訓練や企画立案訓練等

輸送指令所から駅の信号機を遠隔制御できなかった場合に備え、当該駅の信号制御装置を操作して電車の安全運行を確保する信号駅取扱教育訓練や管区駅独自で訓練内容を企画し実施する企画立案訓練等を行っています。



鉄道信号駅取扱教育訓練



企画立案訓練（天王寺管区駅・コスモスクエア管区駅）



◎専門研修・訓練（保守・技術系の研修等の一部を紹介）

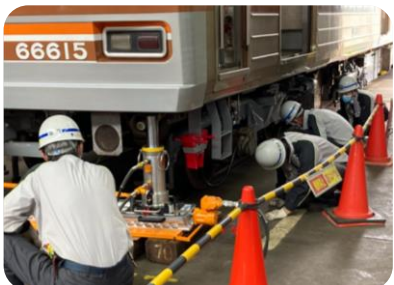
技術部（電気）

「災害を想定した訓練」は毎年テーマを決めて実施しています。昨年度は保守作業中に、誤って脚立から作業員が転倒により負傷したことを想定し、負傷者の応急処置や救急要請などについて訓練を実施しています。また、訓練終了後に振り返りとして意見交換を行い、相互の意識を高めています。



技術部（車両）

万が一、車両が脱線したことを想定した脱線復旧訓練、車輪が固着して回転しなくなった場合を想定した車軸不回転の訓練、また、洪水の際に地上の検車場から地下にある本線への水の流入を防ぐため、鉄扉の開閉状況確認も含めた取扱い訓練なども実施しています。



技術部（工務）

過去に発生した触車事故を風化させないため、実際に触車事故が発生した現場において、どのような環境下で事故が起きたのかを学ぶため、他部門の社員とも連携し実地研修を行っています。常に危険と隣り合わせの職場であることを意識し、日々現場において慎重を期して考動できる人材の育成を目的として実施しています。



技術部（建築）

一般地上建築とは異なる地下鉄における建築施設を管理するうえで、事故やトラブル、自然災害等に柔軟に対応する個人を含む組織力の向上を図る訓練や研修を実施しています。特に、若手社員を対象に、適切な管理に必要なとなる知識等について、座学や現場管理上のOJT等を通じたサポート研修を実施しています。

